

未受診妊婦の背景要因に関する文献的考察

新增有加¹ 逆瀬川真衣¹ 森川真美² 炭原加代¹
¹大阪青山大学健康科学部看護学科 ²千里金蘭大学看護学部看護学科

A review of the literature on factors and reasons
why some pregnant women do not have prenatal care

Yuka Shinmasu¹ Mai Sakasegawa¹ Mami Morikawa² Kayo Sumihara¹

¹ School of Nursing, Faculty of Health Science, Osaka Aoyama University

² Department of Nursing, Faculty of Nursing, Senri Kinran University

Abstract

The concerning number of pregnant women with no prenatal care has recently become a social problem. The unpreparedness of a mother for the upcoming delivery of her child does not only affect her, but the unborn child as well. In addition, this situation of unpreparedness also creates a huge burden for the medical facility that accepts the pregnant woman. In Osaka, a survey revealed that the number of pregnant women with no prenatal care peaked at 307 women in the year 2012, but declined thereafter. However, a survey in 2017 indicated there were still 191 cases of women without prenatal care, demonstrating the continued need for measures to prevent women from being in that situation. For this purpose, we searched the Japan Medical Abstracts Society (*Ichushi*) web database for literature over the past 30 years with regard to our topic, and used the keywords “pregnant women with no prenatal care,” and analyzed the background factors that caused women to forego procuring prenatal care. The results of our study showed four common reasons why women do not avail prenatal care. At 37.1%, the most common reason of the four, was “economic reasons.” This was followed by “unaware of pregnancy” at 10.2%, and “unable to consult with anyone” at 6.3%, and lastly by “busy” at 4.6%. It must be noted that the literature of the past 5 years has shown that “economic reasons” is already declining as a significant reason, while cases where complex home environment, which include the reasons of “unaware of pregnancy” and “unable to consult with anyone” have started to increase. It cannot be denied that women are aware of the existence of public subsidies for

pregnancy medical checkups, which is why the factor of “economic reasons” has started decreasing. However, it is apparent that women not receiving prenatal care for other reasons still continue to exist. It is therefore now clear that measures should be taken to address not only the economic state of women and its effect on their pregnancies, but also the need for provision of greater assistance to pregnant women with complex home environments.

Keyword : pregnant women do not have prenatal care, factors and reasons, review of the literature
 キーワード : 未受診妊婦、背景要因、文献的考察

I. 緒言

近年、飛び込み分娩や未受診妊婦の存在が社会問題となっている。飛び込み分娩とは、分娩が開始して初めて医療機関を受診したり救急隊要請を行う事例のことである。また未受診妊婦とは、妊婦健康診査（以下、妊婦健診）を一度も受けずに分娩または入院に至った、もしくは全妊娠経過を通じての妊婦健診受診回数が3回以下、最終受診日から3ヵ月以上の受診がない妊婦と定義されている¹⁾。

妊娠中は定期的な健診を受けて健康管理を行うことが基本であり、正常妊娠の場合は妊娠が判明してから出産に至るまでに、14回程度の妊婦健診を受診する。妊婦健診では妊娠が正常に経過していることを確認し、ハイリスク妊娠の早期抽出、妊娠合併症の予防、胎児異常の診断、分娩時期の予測、分娩様式の決定、マイナートラブルへの対応や保健指導などが行われる。しかし未受診妊婦の場合、妊娠週数が不明であり、感染症の有無、母子の産科的リスクも十分に把握できないまま分娩となる。そのため母体だけでなく胎児にも影響があり、受け入れる医療施設側にも負担が大きい。2013年の大阪府の調査報告では、未受診妊婦の周産期死亡率（年間の1000出産に対する周産期死亡の比率）は19.5と、一般妊婦の4.0に比べ非常に高い数値となっている²⁾。

2009年厚生労働省は、望ましい受診回数を14回とし標準的な健診項目等を提示した上で、すべてを公費負担の対象とした。公費負担額が大幅に拡充された効果として、増加傾向にあった大阪府の未受診妊婦数は、2012年の307名をピークに減少している。しかし、2017年でも191名の未受診妊婦が存在している（図1）。

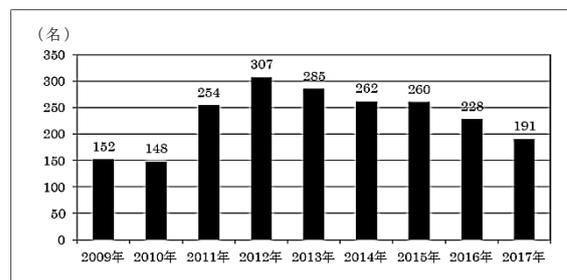


図1. 大阪府の未受診妊婦数

つまり公費負担額が大幅に拡充された現在でも、未受診妊婦は一定数存在しており、そこには経済的な理由以外の要因があることが考えられる。そこで本研究では、妊婦健診を受診しない背景要因について過去の研究を概観し、今後の新たな未受診防止対策を検討することを目的とした。

II. 方法

医学中央雑誌 Web をデータベースに用いて過去30年間の先行研究の検索を行った。キーワードを「妊婦」and「未受診」で原著論文に絞り検索した結果、106件の文献が抽出された。そのうち、妊婦健診を受診しない背景要因について記載されている文献をハンドサーチしたところ、15件となった。一方、キーワードを「飛び込み分娩」として原著論文に絞り検索した結果、120件の文献が抽出された。そのうち、妊婦健診を受診しない背景要因について記載されている文献をハンドサーチしたところ、21件となった。この15件と21件のうち重複する文献を除いた23件を、本研究の分析対象とした。

Ⅲ. 結果

1. 過去 30 年間の研究の動向と概観

23 件の文献について、著者、発表年、対象者、研究内容、妊婦健診を受診しない理由について要約し、表 1 に示した。発表年が 1980～1989 年の文献は 1 件、1990～1999 年は 1 件、2000～2009 年は 9 件、2010～2019 年は 12 件と 2000 年以降、未受診妊婦

や飛び込み分娩に関する文献が増えていた。また 23 件すべてが産科医療施設で受け入れた未受診妊婦の症例報告であり、診療録をもとに後方的に検討していた。23 件の文献の対象（未受診妊婦）の総数は 1022 名であった（表 1）。

表 1. 妊婦健診を受診しない背景要因に関する研究

	著者/年	対象者	研究内容	妊婦健診を受診しない理由
1	増山ら 1989	妊娠末期まで妊婦健康診査を受けずに分娩となった妊婦 27 名	カルテをもとに種々の社会的背景、妊娠分娩経過および新生児の状況等を調査	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的理由(7 件) ・未婚者で分娩の経験がないため躊躇した(5 件) ・離婚協定中ないしは離婚後まもない妊娠のため(4 件) ・経産婦で分娩慣れしている(4 件) ・現夫が逃亡中(1 件) ・不明(6 件)
2	土古ら 1999	飛び込み分娩を行った褥婦 19 名	助産録、看護記録をもとに患者背景、分娩経過及び児の予後を調査	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的理由(13 件) ・不法滞在(4 件) ・産むか迷っていた(2 件) ・妊婦の自覚がなかった(1 件)
3	菊地ら 2001	妊娠 22 週以降の妊婦健診未受診者または定期的な周産期管理を受けていない者など 12 名	診療録から社会的背景、年代、妊娠分娩歴、産科異常、健診未受診の理由などを調査	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的理由(4 件) ・妊娠に気づかなかった(3 件) ・行くつもりだったが行かなかった(3 件) ・隠していた(1 件) ・自宅分娩希望(1 件)
4	新里ら 2004	未受診妊婦 139 名	診療録を後方視的に検討	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的理由(68 件) ・中絶予定だった、忙しかった、秘密にしていた、気づかなかった (件数記載なし)
5	林ら 2006	飛び込み分娩の 34 名	社会的背景、分娩時状況、母児の周産期予後について診療録より検討	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的理由(10 件) ・妊娠に気づかなかった(7 件) ・家庭の状況(5 件) ・気づいていたが放置(3 件) ・妊娠に対する不安(2 件) ・不明(7 件)
6	土谷ら 2008	未受診妊婦 23 名	妊娠・出産とその問題点を検討	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的理由(14 件) ・精神疾患のため受診困難であった(2 件) ・親の看病のため受診する時間がなかった(2 件) ・気づかなかった(2 件) ・不明(4 件)

表 1. 妊婦健診を受診しない背景要因に関する研究 (続き)

著者/年	対象者	研究内容	妊婦健診を受診しない理由
7 松江ら 2008	未受診で分娩に至った 25名	妊婦の背景、母体および新生児の周産期事象、医療費の支払い、未受診の理由について後方視的に検討	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的理由(6件) ・社会的理由(不倫2件、未成年2件、分娩場所なし2件、不法滞在1件)(7件) ・その他(気が付かなかった3件、仕事が忙しい1件、特になし7件)(11件)
8 水主川ら 2008	妊婦健診をほとんど受診することなく分娩に至った未受診妊婦 23名	患者の背景、母児の周産期事象、医療費の支払い状況、問題点について後方的に検討	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的理由(17件) ・離婚調停中(2件) ・路上生活中(2件) ・妊娠や出産に対する不安(1件) ・多忙(1件)
9 北村ら 2008	飛び込み分娩で施設を受診した 62名	妊婦背景、来院時状況、分娩方法、母体合併症の頻度、新生児予後、その他の項目について検討	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的理由(18件) ・家族やパートナーに言えなかった(9件) ・妊娠に気づかなかった(7件) ・産むかまよっていた(3件) ・不明(13件)
10 佐世ら 2009	飛び込み分娩の34名	患者背景、婚姻状況、産科歴、分娩の場所、推定分娩時期、分娩方法、出生体重、児の予後について検討	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的困窮(14件) ・気づかなかった(10件) ・多忙(5件) ・健診は不要だと思った(3件) ・どうしていいかわからなかった(2件)
11 内田ら 2009	飛び込み分娩の39名	飛び込み分娩のリスクを評価	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的理由、妊娠に気が付かなかった、言い出せなかった、多忙、前回も大丈夫だったから(件数記載なし)
12 三原ら 2010	未受診妊婦 13名	年齢、医療保険加入状況、婚姻の有無等、未受診妊婦の背景、MSWの介入状況について検討	<ul style="list-style-type: none"> ・受診する費用がなかった(13件) ・望まない妊娠であった(1件) ・受診する時間がなかった(1件) ・医療機関に行きたくなかった(1件) ・胎児に関心がなかった(1件)
13 小野ら 2010	未受診妊婦 55名	母児の周産期事象を診療録より抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的困難(24件) ・相談する人がいなかった(10件) ・誰にも相談できなかった(9件) ・中絶期間を逃した(2件) ・忙しかった(2件) ・その他(8件)

表 1. 妊婦健診を受診しない背景要因に関する研究 (続き)

著者/年	対象者	研究内容	妊婦健診を受診しない理由
14	田中ら 2010	飛び込み分娩をした 54名 褥婦のカルテから患者 背景と入院中の経過に ついて情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的な理由(17件) ・ 妊娠に気づかなかった(14件) ・ 産むかどうか迷っていた(3件) ・ 妊婦健診に行かなくてもいいと思った(1件) ・ いろいろあって受診できなかった(1件) ・ どうしてよいかわからなかった(1件) ・ なぜだかわからないけど行かなかった(1件) ・ 上の子の世話が忙しくて行けなかった(1件) ・ 夫からの暴力で出してもらえなかった(1件) ・ 産むつもりがなかった(1件) ・ 学校に行っていたから(1件) ・ 親の世話をしている時間がなかった(1件) ・ 夫の子ではないので離婚されると思った(1件) ・ パートナーに中絶するよう言われたが生みたかった(1件) ・ 理由不明(8件)
15	吉田ら 2010	未受診妊婦 53名 患者の背景や母児の周 産期事象を診療録より 抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠に気づいていたが放置(23件) ・ 経済的理由(22件) ・ 妊娠に気づかなかった(6件) ・ その他(5件)
16	鈴木ら 2011	母体搬送された妊婦・ 産婦・褥婦 22名 電子カルテから年齢、婚 姻関係、職業、分娩様式 と分娩場所、未受診の理 由、搬送時の妊娠週数、 児の入院先、児の転帰、 地域医療連携、入院中の 関わりについて検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的理由(9件) ・ 相談相手がいない(5件) ・ 妊娠に気づかなかった(4件) ・ 病院が近くにない(2件) ・ ほかの病院に断られた(2件) ・ 仕事が休めなかった(2件) ・ 近くの病院が実習先だった(1件) ・ 債権者から逃げていた(1件) ・ 親に迷惑をかけたくない(1件) ・ 病院を受診したが悪口を言われる気がした(1件) ・ 夫に中絶を勧められ悩んでいた(1件) ・ 病気の治療に専念していた(1件) ・ 自宅分娩を希望していた(1件) ・ 世間体(1件) ・ 受診する勇気がなかった(1件)

表 1. 妊婦健診を受診しない背景要因に関する研究 (続き)

著者/年	対象者	研究内容	妊婦健診を受診しない理由
17 小野ら 2012	未受診妊婦 65名	年齢、経産回数、結婚の有無、未受診理由、分娩週数、出産時体重、周産期死亡、NICU 管理、分娩方法、母体の合併症、生活支援、児童虐待の社会的リスク因子を診療録より抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的困難(30件) ・妊娠に気が付かなかった(12件) ・誰にも相談できなかった(10件) ・中絶時期を逃した(3件) ・忙しかった(2件) ・その他(8件)
18 内山ら 2012	院外での分娩直後に児と共に救急搬送された症例 44件	分娩台帳や入院診療録などを用いて後方的に検討	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的理由(15件) ・多忙(10件) ・迷い、とまどい(9件) ・その他(5件) ・不明(5件)
19 石原ら 2013	未受診妊婦 115名	産婦の属性、分娩事象、新生児事象、養育、退院後の状況過去の母子診療録より抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的困難(46件) ・気づかなかった(19件) ・相談する人がいなかった(17件) ・忙しかった(12件) ・中絶時期を逃した(4件) ・その他(17件)
20 当間ら 2014	未受診妊婦として対応した 109名	患者背景及び臨床的背景を明らかにし対応策について検討	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的困窮(24件) ・妊娠に気づかなかった(7件) ・どうしたらいいかわからなかった(6件) ・言い出せなかった(2件)
21 佐々木ら 2014	飛び込み分娩に至った 7名	診療録から患者背景、入院中の経過、看護実践について情報収集し検討	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠に気が付かなかった(2件) ・経済的困窮(1件) ・妊娠を家族に知られたくなかった(1件) ・パートナーに知らせたら音信不通になり怖くなった(1件) ・子供 5 人の育児で忙しかった(1件) ・不明(1件)
22 武内ら 2015	未受診妊婦 37名	母体背景、未受診の理由、母体合併症、妊娠週数、分娩場所と分娩様式、出生時体重、児の予後、新生児合併症の有無、児退院後の養育場所、母体の 1 ヶ月健診受診の有無、児の 1 ヶ月健診受診の有無、母体の生育歴、医療費の支払い状況を調査	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境(両親の離婚により祖父母、養護施設で生活、DV 等)(9件) ・金銭問題(7件) ・知識不足(7件) ・気が付かなかった(7件) ・多忙(5件) ・社会的孤立(未婚、路上生活者、外国人等)(4件) ・不明(9件)
23 森下ら 2017	未受診妊婦 11名	母体背景並びに母児の周産期成績に関して検討	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠に気が付かなかった、外国人不法滞在、パートナーへの虚偽、経済的理由(件数記載なし)

2. 妊婦健診を受診しない背景要因

妊婦健診を受診しない理由について、件数が多い順に上位 10 位までを図 2 に示した。妊婦健診を受診しない理由は、「経済的理由」379 件（37.1%）と最も多く、次いで「妊娠に気づかなかった」104 件（10.2%）、「誰にも相談できなかった・妊娠を隠していた」64 件（6.3%）、「多忙」47 件（4.6%）、「妊娠に気づいていたが放置した」35 件（3.4%）、「知識不足・どうしていいかわからなかった」28 件（2.7%）、「家庭の状況（離婚、DV、不倫）」26 件（2.5%）、「産むか迷っていた」21 件（2.1%）、「不法滞在や路上生活」11 件（1.1%）、「中絶予定だった」10 件（1.0%）であった。その他の理由には、未成年、自宅分娩希望、精神疾患、病院に断られたなどがあった（図 2）。

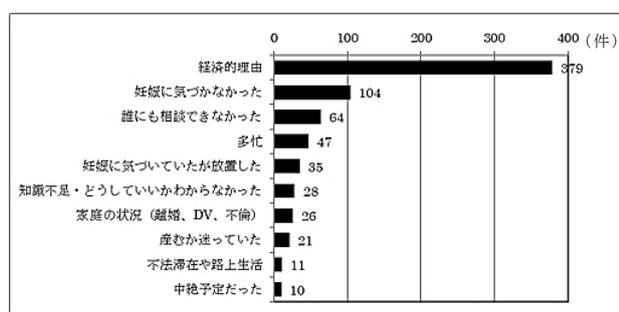


図 2. 妊婦健診を受診しない理由

3. 近年 5 年間の妊婦健診を受診しない背景要因の変化

2014 年以前の文献では妊婦健診を受診しない理由として経済的理由の占める割合が最も多かったが、2014 年以降は経済的理由の割合が減少し、「妊娠に気づかなかった」や「誰にも相談できなかった」など家庭環境による理由の割合が増加した。

IV. 考察

過去 30 年間の文献を概観し、妊婦健診を受診しない最も多い理由は「経済的理由」であった。地方交付税の用途は自治体の自由であるため、公費負担額には自治体間で多少の差はあるが、おおむね 14 回の妊婦健診料の補助があることを全妊婦に周知していく必要がある。また近年では、ひとり親家庭医療費助成制度、乳幼児医療費助成制度、生活保護、児童扶養手当制度、母子福祉資金貸付制度などの妊娠・出産・子育てに関する支援制度は拡充されている。しかしこれらの制度拡充を知らない妊婦も多く、知識不足によって経済的困難を理由に受診しない妊

婦を減らしていく必要がある。

一方、近年 5 年間の文献では、「経済的理由」が減少傾向にあり、「妊娠に気づかなかった」や「誰にも相談できなかった・妊娠を隠していた」など複雑な家庭環境が要因の事例が増加傾向にあった。妊婦健診の公費負担制度が浸透し、経済的理由の未受診は減少しつつあるが、その他の理由の未受診は防ぎ切れていないことが明らかになった。今後は経済面だけでなく、特定妊婦と呼ばれる複雑な家庭環境の妊婦への妊娠初期からの介入が未受診防止のために必要である。

分娩開始まで妊娠に気づかなかった理由としては、生理不順、肥満体型、更年期、私生活が多忙で普段から妊娠を意識していないこと等が考えられる。しかしすべての未受診妊婦が、分娩が開始するまで妊娠に気づかなかったということは考えにくく、妊娠の兆候に気づいていたが何らかの理由で気づかぬふりをしていただ可能性がある。対象者が語った未受診の理由は後付けであり、飛び込み分娩にいたる背景としては、妊婦が胎児に無関心（胎児ネグレクト）であることが多く、望まない妊娠や社会的に孤立しているなどの様々な理由が合わさり未受診に至っていると考えられる。「妊娠に気づかなかった」という妊婦の言葉を表面的に理解するのではなく、その言葉の裏にある本当の理由を傾聴し、社会的孤立を防ぐ対策が求められる。

さらに近年は核家族化や家族形態の複雑化、コミュニケーション手段の変化などにより、家族や知人との関係が希薄になり、「誰にも相談できなかった・妊娠を隠していた」事例につながっていると考えられる。望まない妊娠をはじめ妊娠・出産に関する悩みの電話相談「妊娠 SOS ネットワーク」などの支援体制について、妊婦だけでなく全女性への広報を徹底する必要がある。

また「多忙」や「妊娠に気づいていたが放置した」事例では妊婦健診の必要性や妊娠・分娩の危険性を十分に理解していないことが未受診に繋がったと考えられる。妊娠から分娩までの周産期にはいつでも異常が起こる可能性があり、妊婦健診を受診することが安全な出産には重要であることも全女性への周知を徹底する必要がある。

V. 結論

本研究では、妊婦健診を受診しない背景要因について検討を行った。未受診の理由は「経済的理由」

が37.1%で最多であり、次いで「妊娠に気づかなかった」、「誰にも相談できなかった」、「多忙」であった。しかし近年5年間の文献では、「経済的理由」が減少傾向にあり、「妊娠に気づかなかった」や「誰にも相談できなかった」など複雑な家庭環境が要因の事例が増加傾向にあった。妊婦健診費の公費助成

により経済的理由の未受診は減少しているが、その他の理由の未受診妊婦は防ぎ切れていないことが明らかになった。今後は経済面だけでなく、複雑な家庭環境の妊婦への対策が未受診防止のために必要である。

要旨

近年、未受診妊婦の存在が社会問題となっている。飛び込み分娩は母体だけでなく胎児にも影響があり、受け入れる医療施設側にも負担が大きい。大阪府の未受診妊婦の調査では2012年の307件が最多で、以降は減少傾向にある。しかし2017年の調査でも191件は発生しており、未受診防止のために新たな対策が必要である。そこで本研究では、医学中央雑誌Webで未受診妊婦をキーワードとした過去30年間の文献を検索し、未受診となった背景要因について分析を行った。その結果、未受診の背景要因は「経済的理由」が37.1%と最多で、「妊娠に気づかなかった」10.2%、「誰にも相談できなかった」6.3%、「多忙」4.6%であった。しかし近年5年間の文献では、「経済的理由」が減少傾向にあり、「妊娠に気づかなかった」や「誰にも相談できなかった」など複雑な家庭環境が要因の事例が増加傾向にあった。妊婦健診費の公費助成については妊婦に周知され、経済的理由の未受診は減少しているが、その他の理由の未受診妊婦は防ぎ切れていないことが明らかになった。今後は経済面だけでなく、複雑な家庭環境の妊婦への対策が未受診防止のために必要である。

文献

- 1) 大阪産婦人科医会：2010年未受診や飛び込みによる出産等実態調査報告書
<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/3964/00098618/mijyusinchousa2009.pdf> (2020.2.10)
- 2) 光田信明：大阪府未受診妊娠調査報告～4年間の成果と今後の課題～
http://www.jaog.or.jp/wp/wp-content/uploads/2017/01/68_130911.pdf (2020.2.10)
- 3) 増山節子, 荒井都志子, 池端光子他：墨田病院における未受診妊婦の状況, 保健婦雑誌, 1989, 45 (1), 74-76.
- 4) 土古隆子, 綿貫美恵, 酒井トシ子他：当院に於ける飛び込み分娩の現状, 旭中央医報, 1999, 21 (2), 216-219.
- 5) 菊地真紀子, 笠井靖代, 松本陽子他：妊婦健診未受診者の背景と問題点, 日産婦東京会誌, 2001, 50 (4), 511-514.
- 6) 新里麻美子, 高良はな絵, 三浦耕子他：当院における未受診妊婦の現状, 日産婦沖縄誌, 2004, 26巻, 44-48.
- 7) 林昌子, 三宅秀彦, 山本晃人他：当科における妊婦健康審査未受診症例の検討, 日産婦東京会議, 2006, 55 (2), 158-161.
- 8) 土谷美和, 菖浦川紀久子, 田村正毅他：当院における飛び込み分娩の現状とその問題点, 日産婦新潟地方会誌, 2008, 99巻, 12-14.
- 9) 松江陽一, 片桐由起子, 大野斐子他：当院における妊婦健康診査未受診分娩例の検討, 産婦人科の実際, 2012, 61 (12), 1971-1974.
- 10) 水主川純, 定月みゆき, 箕浦茂樹他：当科における妊婦健康診査未受診妊婦の検討, 日本周産期・新生児医学会誌, 2009, 45 (1), 32-36.
- 11) 北村真理, 岩間憲之, 岡村智佳子他：当院における飛び込み分娩症例の検討, 仙台市病院医誌, 2008, 28巻, 15-19.
- 12) 佐世正勝, 伊藤悦子, 藤野俊夫他：山口県における飛び込み分娩の現状, 周産期医学, 2009, 39 (2), 259-262.
- 13) 内田崇史, 長谷川雅明：当院における「飛び込み分娩」の検討, 産婦人科の実際, 2009, 58 (4), 635-639.
- 14) 三原由香里, 石塚友美, 齋藤りさ他：未受診妊婦への介入の検討, 愛仁会医学研究, 2010, 42巻, 165-166.
- 15) 小野良子, 高橋佳世, 比嘉涼子他：当院における未受診妊婦の検討, 愛仁会医学研究誌, 2010,

42 卷, 9-13.

- 16) 田中時穂, 豊田裕子, 吉村みちよ: A 病院における過去 5 年間の飛び込み分娩の実態と今後の課題, 日本看護学会論文集: 母性看護, 2011, 112-114.
- 17) 吉田昭三, 伊東史学, 重光愛子他: 当科で診療した未受診妊婦の分娩症例に関する検討, 産婦人科の実際, 2009, 58 (8), 1215-1219.
- 18) 鈴木佳子, 山下貴美子, 坂本富子: 母体搬送された未受診妊婦の問題と課題, 山梨県母性衛生学会誌, 2011, 10 卷, 7-12.
- 19) 小野良子, 安田立子, 山本瑠美子他: 当院における未受診妊婦の周産期予後の検討, 産婦の進歩, 2010, 64 (3), 300-307.
- 20) 内山薫, 伊藤一之, 白久博史他: 総合病院土浦協同病院における飛び込み分娩症例の検討, 茨農医誌, 2012, 25 卷, 44-47.
- 21) 石原和菜, 小林茜, 西藤茜他: 当院における未受診妊婦の現状と検討, 愛仁会医学研究誌, 2013, 45 卷, 43-47.
- 22) 当間理恵, 青木茂, 今井雄一他: 飛び込み分娩における実態と対策～飛び込み分娩を防ぐには～, 神奈川県産科婦人科学会誌, 2014, 51 (1), 29-31.
- 23) 佐々木萌, 前田瑛子, 楠見由里子: A 病院での飛び込み分娩への看護実践と今後の課題, 茨城県母性衛生学会誌, 2015, 33 号, 17-30.
- 24) 武内麻佑, 押方敦子, 齋藤恵里奈他: A 病院における妊婦健診未受診妊婦の後方視的検討～未受診を繰り返さないための保健指導～, 東京母性衛生学会誌, 2015, 31 (1), 19-22.
- 25) 森下みどり, 波多野茉美, 紀平力他: 当院へ搬送された未受診妊婦症例の検討, 三重県産婦人科医報, 2017, 35 号, 167-170.